



▲「YATTAROKA」
(上田3丁目:河内松原駅前)



▲像裏面に刻された
「流政之」のサイン



▲像の除幕式(平成5年7月21日) 右端が流氏。
(右:松原都市開発株式会社 左:岡田光市氏 提供)



世界的彫刻家のモニュメント 河内松原駅前設置の黒御影石

七月七日、世界的彫刻家の流政之^{ながれまさゆき}さんが亡くなりました。九十五歳でした。流さんは、香川県高松市の庵治^{あぢ}半島東海岸に「石と煉瓦^{れんが}の砦^{とりで}」といわれたスタジオを構え、各地に大型の石の彫刻を制作しました。

一九六四年(昭和三十九)にアメリカ・ニューヨーク世界博日本館の壁画「ストーンクレイジー」が絶賛され、国際的彫刻家としての地位を確立したのです。一九七五年(昭和五十)には、ニューヨークの世界貿易センタービルに石彫「雲の砦」を設置しましたが、二〇〇一年(平成十三)のアメリカ同時多発テロのため撤去されました。

国内では、昭和三十七年(一九六二)の大分県庁舎の「恋矢車」で日本建築学会賞を受け、昭和四十九年(一九七四)には、日本芸術大賞を受賞しています。日本映画アカデミー賞のトロフィー「映画神像」も制作しています。

ところで、この流さんの貴重な作品が松原市内にもあることを紹介します。平成三年(一九九二)七月、近鉄河内松原駅前南地区の再開発事業が着工されました。もともと、同地には松原小学校が建っていました。

昭和四十七年(一九七二)の小学校

移転後、市などは「賑わいと華やかさのある、新しいイメージの都市空間の創出」をテーマに、複合生活施設「ゆめニティまつばら」の完成をめざしていたのです。そして、着工から二年後の平成五年七月二十三日、「ゆめニティまつばら」はオープンしたのです。

オープンの二日前の二十一日には、河内松原駅にのびる歩道橋オーバードッキに設置された巨大な石のモニュメントの除幕式も盛大に行われたのです。再開発にあわせて松原市の表玄関にふさわしいモニュメントを、流さんに河内松原駅前南地区市街地再開発組合(現、松原都市開発株式会社)に引き継がれる)が依頼していたのです。

この時、流さんと組合との間をとりもったのが、当時、大阪市内の画廊に勤めていた柴垣一丁目に住む岡田光市さんでした。岡田さんは今でも美術商としてコウイチ・ファインアーツを営み、流さんと面識のあったことから、巨石モニュメントの設置が実現したのです。

組合などの方々には、流さんの庵治半島にあるスタジオを訪れ、熱っぽく松原市にふさわしいモニュメント像のイメージを語りあいました。コンセプトは、河内人情の優しさとしん気を表現した作品でした。

流さんは作品をつくるにあたっ

て、現地の松原市を訪ねないと、風土に根づいた作品をつくること出来ないと考えられました。そして、まもなく本市にこれ、河内松原駅前立ち、河内や本市の歴史・文化・伝統などを尋ねられたのです。

流さんが特に興味を持たれたのが、夏の風物詩である盆踊りの河内音頭の熱気でした。また、河内言葉にも関心を示され、「何かインパクトのある用語がありますか」と聞かれました。その時、地元の人々が発した河内の人々の意気込みを表現する「いっちょやう やったるか」という言葉に相づちをうたれたのでした。流さんは、河内音頭の踊り手を連想しながら、本像を「やったるか」とよぶことにしたということです。

黒御影石^{くろみかげいし}を材料に高松の庵治で三体の石像の制作が行われました。台座の表面に「YATTAROKA」のプレートを入れ、裏面には「流政之」とサインされました。サイン下の台座裏面には「1993 BY MASSA YUKI NAGARE」と刻まれています。

流さんは言っています。像は、見る人にとってどのような感じでもらってもいい。この像を見て、夢と希望と勇気を持ってもらえればよい。私は、除幕式に出席した流さんの晴れ晴れした姿を想いおこしています。